

過去から学んで備える防災

今回の特集の内容は市政情報等提供番組「ちゃんねるよっかいち」でも紹介します。

ちゃんねる
よっかいち
運動

●地デジ12ch(CTY)

●6月21日(金)~30日(日)に放送
月・水・金・日曜日 9:30、20:30
火・木・土曜日 12:30、20:30



60年前に伊勢湾台風を体験したことから、小学校の授業などで当時の様子や日頃の備えの重要性を伝えている、「伊勢湾台風の語り部」のお二人にお話を伺いました。



「想定外」を想定した備えを

山野正隆さん

伊勢湾台風が来た日の昼間は天気良くて、まさかこれほど大きな被害が出るとは思っていませんでした。当時高校2年生だった私は、弟たち家族と自宅の2階に避難していましたが、1階が浸水し、すぐそこまで水が迫ってきていたことを覚えています。台風が過ぎた数日後、決壊した堤防を地域の人たちと直に行ったときにも、吹き返しの風が非常に強く、作業中の車の荷台から落とされそうになった記憶があります。60年経った今でも台風が来ると風が怖いと思います。

国内で大きな災害があると、自分のことと考えて災害に備え準備をしますが、その後、平穏な日が続くと忘れてしまいがちだと思います。

防災・減災の技術は進歩しているので、伊勢湾台風と同じクラスの台風が来ても、同じ被害は出ないかもしれません。でも、自然災害では「想定外」と言われる大きな被害が発生します。まずは何か起きる前に、一人ひとりがしっかりと備えて、防災意識を高めることが大切だと思います。

高田きみよさん

防災は普段の生活の中に

伊勢湾台風が発生した当時、親が勤める会社の社宅に住んでいて、家族や同じ社宅の人と避難しました。当時10歳の私の膝上まで迫る洪水の中、大人は流されないようにロープを握り、私は父親の雨がっぱの中に入り必死についていきました。そのときの恐怖や臭いなどは、今でもはっきりと覚えています。

伊勢湾台風から60年が経過し、当時を知る人が減ってきています。大きな災害を経験していない世代の人たちに「四日市市でも大きな災害が起きるかもしれない」と意識してもらうためにも、体験を伝えていかないといいませんね。

災害への備えとして防災グッズを準備することは重要ですが、それらが日々の暮らしの中に存在していることが大事だと思います。防災グッズを玄関やリビングなどのすぐに手が届く場所に置いたり、雨がっぱを自転車のかごに入れておいたりして、とっさの行動に生かせるようにしていくことが必要だと感じています。



多くの被害をもたらした伊勢湾台風



1959年(昭和34年)9月26日夕刻に紀伊半島先端に上陸した台風15号(伊勢湾台風)によって、台風災害としては明治以降最多の死者・行方不明者数5,098名に及ぶ被害が生じました。本市においても、110余名の尊い生命と多くの住家・財産が奪われました。

◀壊れた防波堤(大協町)



倒壊した家屋(大協町)



床上浸水が数戸に及ぶ磯津民家



片付けをする子どもたち

災害発生！ 大言発主！

そのときに必要な3つの「助」

自分で守る

自助

防災の基本は、「自助」です。

自分の命は自分で守る、自分のことは自分で助ける・なんとかする、ということです。そのためには、事前の備えが必要です。災害に対する備えとしては、緊急避難グッズや非常食の準備、家具の転倒防止対策、住宅の耐震補強などがあります。

今できる事前の備え

自宅に常備しておくもの

- 食品 [約7日分(レトルト食品、缶詰、調味料、スープ、味噌汁など)]
- 水 [約7日分(1人当たり1日3リットル)]
- 簡易食器(割り箸、紙皿)
- 毛布、寝袋など 洗面用具
- カセットコンロ、燃料など
- 鍋、やかん 簡易トイレ
- 非常持ち出し袋



皆さんの自宅にある
緊急避難グッズや
非常食をチェック!

家族防災手帳でも
確認しましょう



災害時に必要な情報を得るために

安全安心防災メール

例年6月から10月ごろまでは、集中豪雨や台風などによって河川が増水しやすい「出水期」です。この時期は、全国的にも大雨に伴う土砂災害などが増加します。

四日市市では、防災情報などを携帯電話やパソコンにメールで送信する「四日市市安全安心防災メール」を運用しています(登録料無料)。まだ登録していない人は、この機会にぜひ、ご登録ください。



四日市市安全安心防災メール

登録は下記へ
t-yokkaichi-city@sg-m.jp
※空メール送信による登録

川の防災情報

国が管理する河川で、氾濫の危険が高まったとき、緊急速報メールが自動で発信されます。メールを受信したら、雨の降り方や鈴鹿川の今の水位を「川の防災情報」で確認しましょう。



アクセス!

パソコンから

<http://www.river.go.jp/>

スマートフォンから

<http://www.river.go.jp/s/>



地域で助け合う

共助

公的機関の支援

公助

防災の基本は「自助」ですが、自分でできることには、限界があります。そこで重要なのが、家族だけでなく、自治会や自主防災組織などの身近な地域コミュニティ単位で、防災としての助け合い体制を構築し、また災害発生時に実際に助け合う「共助」です。

積極的に、地域の防災訓練に参加しましょう



住んでいる地域によって地形などの特性があるため、必要な防災活動も変わります。自分が住むまちの特性をよく知り、災害発生に備えましょう。

各地域での防災訓練の日程などは、地区市民センターが発行するセンターだよりなどでお知らせしています。

令和元年度 市民総ぐるみ総合防災訓練

日時/10月下旬 ※詳しくは広報よっかいち9月下旬号でお知らせします

個人や地域では解決できない問題を公的機関が解決することを「公助」といいます。

災害発生時には、市役所、消防署、警察署、自衛隊などが救助活動、避難所開設、救援物資の支給などを行います。

市では、大規模災害時に全国からの救援物資受け入れの第一次拠点となる総合防災拠点の整備を神前地区で着手し、令和2年度中の完成を目指して工事を進めています。

南海トラフ巨大地震 臨時情報

南海トラフ沿いの地域で、マグニチュード8~9クラスの地震が今後30年以内に発生する確率は70~80%(平成31年1月1日現在)とされており、大規模地震発生時の切迫性が指摘されています。

平成31年3月、地方公共団体・企業などの防災対応に生かすため、国から南海トラフ巨大地震の防災対応ガイドラインが公表されました。次の三つの現象の場合、気象庁から臨時情報が発表されます。

- ①南海トラフの想定震源域内のプレート境界でマグニチュード8.0以上の地震が発生した場合
- ②南海トラフの想定震源域およびその周辺でマグニチュード7.0以上の地震が発生した場合
- ③ひずみ計等で有意な変化として捉えられる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合

(南海トラフ巨大地震の防災対応ガイドラインより)

災害時の避難情報が変わりました

平成31年3月に国(内閣府)の「避難勧告等に関するガイドライン」が改定されたことに伴い、本市においても災害時の避難情報が変わりました。

市では、災害発生のおそれがある場合、市民の皆さんに「四日市市安全安心防災メール」や「防災行政無線」「エリアメール」など、さまざまな方法で避難情報を提供します。

どんなときに、どんな情報が出るか、また、そのときにどんな行動をとるのか、事前にしっかり確認して、防災・減災に努めましょう。



避難情報

警戒レベル	提供する情報	市民の皆さんがとるべき行動
警戒レベル5	災害の発生情報	すでに災害が発生している状況です。最低限、命を守る行動をとってください。
警戒レベル4	避難勧告 避難指示(緊急) [※] <small>※緊急時や重ねて避難を促すときに発令します</small>	通常の避難行動ができる人も、速やかに避難を開始してください。
警戒レベル3	避難準備・ 高齢者等避難開始	避難に時間がかかる人は避難を開始してください。 その他の人もいつでも避難できるよう準備をしてください。
警戒レベル2	注意報	避難に備え、自らの避難行動を確認してください。
警戒レベル1	警報級の可能性	最新の災害情報に注意するなど、災害への心構えを高めてください。

↑ 高
危険度
四日市市が発令
気象庁が発表
↓ 低



さまざまな災害に備える消防署

ドローン隊運用開始

近年、ドローンは世界的にさまざまな場面で活用されており、災害活動においても平成28年の熊本地震や平成29年の九州北部豪雨など、被害状況の把握に非常に有効であることが報告されています。

消防本部では、昨年度に高性能カメラを搭載したドローンを購入し、操縦員の養成を行い、本年4月1日からドローン隊を発足させ、運用を開始しました。

ドローン隊発足後、実際に市内で発生した災害現場でドローンを飛行させ、上空から被害状況を確認するなど、今まで困難であった活動が迅速かつ効率的に実施可能となりました。

今後も災害現場に限らず、調査など日常の業務においてもドローンを有効に活用していきます。



南消防署に救助工作車が登場



市域南部エリアの救助体制の強化・充実を図るため、新たに救助工作車を南消防署へ配備し、本年3月28日に運用を開始しました。

今回配備した救助工作車は、通常の救助資機材に加えて、テロ災害にも対応可能な資機材を装備しています。乗車スペースがとても広いため、化学防護服と呼ばれる防護服の着用が車内で可能となっています。

■主な装備

- ・電動油圧救助器具
- ・クレーン、ウインチ
- ・NBC(テロ災害等)対応資機材(化学剤検知器、陽圧式防護服、放射線防護服など)

●この特集についてのお問い合わせ・ご意見は

危機管理室 ☎ 354-8119 FAX 350-3022
 消防本部 総務課 ☎ 356-2002 FAX 356-2016
 広報マーケティング課 ☎ 354-8244 FAX 354-8315